

九代・長江 惣吉 ながえ そうきち

1963年	瀬戸の累代の染付磁器の窯屋の素山窯に誕生
1983年	瀬戸窯業高等学校陶芸専攻科卒業
1985年	大阪芸術大学芸術計画学科中退、家業の染付磁器の素山窯に入る
1995年	父の八代・長江惣吉の死去に伴い、父のライフワークの曜変再現研究を継承
1996年	曜変が宋代に焼成された福建省建陽市で開催の「中国古陶磁研究会・17次国際討論会」に招請を受け「瀬戸天目陶瓷」論文発表、建窯窯址を調査
1997年	建窯窯址を調査、建窯窯址の発掘保存事業に協力、建陽市政府より表彰。これ以降、現在までに40余回建窯窯址を訪問調査
1998年	九代・長江惣吉を襲名
1999年	日本陶磁協会機関誌「陶説」に「曜変考」掲載、以降「陶説」誌に論説を掲載
2001年	福建省の建窯窯址で、宋代に曜変に使用の粘土と釉薬原料を調査・採掘、輸入
2003年	NHKハイビジョンスペシャル「幻の名碗 曜変天目に挑む」出演
2010年	東洋陶磁学会研究会にて「曜変の再現研究」発表
2012年	瀬戸市瀬戸蔵ミュージアム「ルスと呼ばれた焼き物、近世瀬戸の新たな試み」展 企画提唱 開催 東洋陶磁学会に「宋代建窯の光彩の研究」論文、論文集掲載 中国中央電子台(CCTV)「瓷路」出演 中国景德镇市にて開催の「古陶磁科学技術国際討論会」にて「曜変の光彩の再現研究」論文発表
2013年	愛知県長久手市 名都美術館「長江惣吉作陶展・曜変天目の再現と創作」展 開催
2014年	中国・杭州訪問 世界で初めて発見された曜変の陶片(南宋宮廷遺跡出土)を観察
2015年	上海で開催の「古陶磁科学技術国際討論会」「茶洋窯の灰被天目の研究」論文発表
2016年	NHK・E-TV特集「曜変～陶工・魔性の光彩に挑む」に出演
2017年	金沢・玄羅アートにて個展開催 瀬戸市美術館にて「曜変 長江惣吉」展開催 福建省建陽市で開催の「建窯建盞文化和産業発展学術研討会」に招請 研究発表
2018年	名古屋「アートサロン光玄」にて個展開催 TBSテレビ「クレイジージャーニー」出演 中国福建省建陽に長江惣吉作品の展示ギャラリー「曜変之路」オープン 「古陶磁科学技術国際討論会」論文集に「国宝の曜変の分析と検証」掲載
2019年	インドネシア政府より長江惣吉作「曜曜盞」がローマ法王に献上 愛知県文化芸術選奨文化賞受賞 福建省建窯にて作陶交流



※再現した曜変天目茶碗も参考展示いたします。

2019年
10月11日(金)～29日(火)
12:00～18:00(水・木休廊)
作家在廊日:11～13日、26～28日



アート
玄 羅
g e n r a

〒920-0853 金沢市本町2丁目15-1 ボルテ金沢3F [ホテル日航金沢横]
TEL/FAX 076-255-0988 E-mail genraart@ozzio.jp

Web [www://genraart.com](http://www.genraart.com)



玄羅アート

九代・長江惣吉展 「建窯制作記念」

◆曜変天目の再現◆



アート
玄 羅
g e n r a

ホテル日航金沢横 ボルテ金沢3F



□□□□□□□□

玄羅アートで2回目の個展をさせていただくこととなりました。
皆様に金沢でお目に掛かるのが楽しみです。
私の中国との20年余の交流が実り、
昨年9月に国宝の曜変の故郷、
中国・福建省の建窯に
私の作品展示ギャラリーが開店いたしました。
その名も「曜変之路」、大規模で現代センス溢れる空間です。
「曜変之路」を拠点に中国各界との交流を広げる中、
私は本年の春から夏に
建窯の陶芸工房2軒にて作品制作を行いました。
宋代に曜変が生み出された
建窯の地での作陶は大いに心躍るものがあり、
新たな作品分野を切り拓くことが出来ました。
日本では初めて玄羅アートにおいてその成果を展示いたします。
ぜひ皆様のご高覧をお願い申し上げます。

九代・長江惣吉 拝



□□□□□□□□

至高のやきもの「曜変」、漆黒の釉面に瑠璃色の
光彩で囲まれた銀色の斑紋が浮き出す幽玄な天目
茶碗は、古来多くの人々を魅了してきた。室町将軍
家の道具類を解説した『君台観左右帳記』では「無
上」「世上になき物」「萬疋」など最上級の評価が
与えられ、その所持者には室町將軍家、織田信長、
徳川將軍家など時の最高権力者たちが並ぶ。明治・
大正以後その存在は茶人や陶芸家に広く知られるよ
うになり、多くの陶芸家がその再現を試みたが、長
きにわたって「曜変」の製法の秘密が解明されるこ
とはなかった。

現在その秘密に最も近づいているのが九代・長江
惣吉である。長江は父である八代惣吉から数えると
半世紀以上に亘って「曜変」の再現を続けて来た。
若いころから「曜変」を焼いた中国福建省建窯の

窯跡をくまなく調査し、現地の陶土や釉の材料を入
手して焼成実験を繰り返した。その結果、窯の中で
発生したフッ素ガスの影響で光彩と斑紋が現れること
を突き止め、伝世の「曜変」に限りなく近い作品を、
世界で初めて焼き上げた。さらに、再現実験の過
程で「曜々盞」など長江独自の魅力的な作風も生
み出している。近年は「曜変」の故郷である建窯で
も制作を行っているが、今次展覧会は建窯での作品
の日本国内初公開となる。

沖縄県立芸術大学 教授
森 達也